

# 透析導入前病室訪問の見直し

鈴木 宏美, 下田 絵里, 渡辺みどり, 佐々木まり子, 中村 桑子

札幌社会保険総合病院 人工透析室

透析導入期は、慢性腎不全による尿毒症症状及び透析療法による急激な体内環境の変化に伴い、身体的にも精神的にも不安定な時期であり、生涯続けて行かなければならない透析に対して、多くの不安や問題を抱えている。私達透析治療に携わるスタッフは、患者の肉体的・精神的苦痛を最小限度にとどめ、透析療法を受容できるように援助しなくてはならない。

当院では、スムーズな透析導入を目的として、導入前日に透析導入前病室訪問の場を設けることで、患者の不安を和らげ、患者の状態を観察している。現在の導入訪問の形式が、患者の不安軽減に効果的なものであったかの評価をしていないため、それらを確認したいと考えた。今回の研究では、患者に質問調査を行い、導入訪問の見直しを図った。

キーワード：透析導入期、病室訪問、不安軽減、透析患者、透析療法

## はじめに

当院では、スムーズな透析導入を目的として、6年前より導入前日に病室訪問の場を設ける事で、患者の不安を和らげ、患者の状況を観察している。今回の研究では、患者に質問調査を行い、現在の導入前病室訪問の形式が、患者の不安軽減に効果的なものであったか確認し、訪問の意義について検討した。

## 方 法

期 間：平成10年1月29日～6月11日

対 象：導入前病室訪問（表1）を受け、現在当院で透析施行中の患者9名（表2）

（表1）

透析導入前病室訪問の形式	
対象者	透析導入患者（緊急導入を除く）
日 時	導入前日のみ
場 所	病室
訪問者	透析室看護婦（担当は特定していません）
内 容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラッドアクセスの観察</li> <li>・身体症状</li> <li>・医師からどのように説明されたか</li> <li>・導入当日と今後の透析予定について説明</li> <li>・不安や疑問の有無</li> <li>・透析室見学</li> <li>・その他</li> </ul>

研究方法：面接聞き取り調査

## 結 果

- 1、訪問時気持ちに余裕がなく何を質問してよいかわからなかった。6名
- 2、導入時、退院後の生活を考える余裕はなかった。2名（50代女2名）
- 3、退院後の生活や子供のことが導入前から心配だった。2名（30代女、50代女）
- 4、透析がどのようなものか実際にしてみなければ

（表2）

氏 名	性 別	年 齢	職 業
M. M	女	51	主婦
A. H	男	62	無職
K. T	女	51	主婦
J. O	女	32	主婦
M. S	女	34	主婦
H. M	男	94	無職
S. F	女	74	無職
K. F	女	57	主婦
T. H	女	59	主婦

n = 9    男：女 = 2：7    平均年齢 = 57.1才

- わからず、不安だった。2名(50代女2名)
- 5、訪問時の話の内容は、あまり覚えていない。3名(90代男、70代女、60代女)
- 6、透析室案内の用紙が欲しい。6名
- 7、透析導入後に透析室以外の場所で話をする機会が欲しい。2名(30代女、50代女)
- 8、導入前訪問で話を聞くことで緊張の度合は変わらなかった。7名
- 9、導入前訪問があって安心した。2名
- 10、導入当日、訪問看護婦がいたので安心した。4名

### 考 察

アンケート結果1～4の解答のように、透析導入前は、気持ちに余裕がなく、不安を感じていた、という意見が多数聞かれた。

このことから、導入患者は、精神的に不安定な状況にあるだけではなく、仕事・家庭などの社会的役割も大きい。このことから、透析治療と日常生活の両立について不安があることが考えられた。

導入前訪問の内容については、「訪問時の話の内容は、あまり覚えていない。」や「透析室案内の用紙が欲しい。」という意見があった。そして、前に述べたように精神的動揺が強い状態の患者に、口頭だけの説明は、不適切であると考えた。このことから、確実な情報提供のためには、パンフレット等視覚に訴えるものが効果的であり、特に高齢者に有効であると考えた。

透析導入後については、今までは、特に問題や患者からの希望がなければ、導入後の面接の場は設けていなかった。しかし、少数ではあったが、「透析導入後に透析室以外の場所で話をする機会が欲しい。」という意見もあり、導入後に看護者から働きかけ、必要に応じて、個別的に面接の場を設ける必要があるといえる。それによって、不安軽減や問題解決の機会につながると考える。

導入前訪問による精神的影響については、「導入前訪問があって安心した」や、「導入前訪問で話を聞くことで緊張の度合は変わらなかった」等の意見がきかれた。このことから、今までの導入前訪問により不安が増強していなかったことが分かった。また、1人の看護婦が、導入前訪問と透析導入日を通して担当した患者からは、「導入当日、訪問看護婦がいたので安心した」という意見が4名あった。以上のことから、導入期を通して同じ看護婦が関わることが、患者の不安軽減に効果的であると考えた。

今回の研究では、次のことが明らかとなった。

- 1) 透析導入時の患者への説明の際、視覚に訴えるものを利用する
- 2) 患者の要望や看護婦が必要があると判断した場合は、導入後も個別的に面接の場を設けることが望ましい
- 3) これまでの導入前訪問により、透析に対しての不安が増強した患者はいなかった
- 4) 導入前訪問を担当した看護婦が、導入当日関わることが望ましい

### おわりに

透析導入期は、透析患者にとって「生涯の透析」を受容する為の第一歩であり、患者がセルフケア能力を身につける重要な期間でもある。そのため、今後は今回得られた結果を基に、導入前病室訪問の形式を見直し、患者の透析の受容や退院後の生活を意識した、より充実したケアを提供したい。

### 文 献

- 1) 竹田徹朗、ほか：スムーズな導入援助とは？．透析ケア．VOL3. NO5. 1995. P35～45
- 2) 春木繁一：透析患者と生きる ―スタッフのためのリエゾン・コンサルテーションの臨床．1994. 日本メディカルセンター

## Examination of an interview with patient with introductory hemodialysis

Hiromi SUZUKI, Eri SHIMODA, Midori WATANABE

Mariko SASAKI, Kumeko NAKAMURA

Dialysis room, Sapporo Social Insurance General Hospital

An examination of an interview with patients with introductory hemodialysis.

We visited and interviewed 13 patients with introductory hemodialysis, who were under hemodialysis therapy.

The patients complained of anxiety and unrest due to hemodialysis. When living as outpatients they requested consultations with same nurse after introduction to therapy.

We concluded that interview and consultations with the same nursing staff before and after introduction of hemodialysis is necessary.

In addition, a visual manual of introduction to hemodialysis is useful, especially with patients.

---